

# 第26回自治体学会 広島大会 2012.8.31 (金) 広島国際会議場

## プログラム一覧

大会統一テーマ：地域から創る日本の自治 ～広島で描くまちとむらの未来～

【分科会】 ▶ 午前の部 (10:00 ~ 12:00) ▶ 午後の部 (13:00 ~ 15:00)

### 午前：分科会 1 福島 ～今、何が起きているのか～

東日本大震災は、巨大津波と原発事故を伴う深刻な「複合災害」を東北と関東を中心に及ぼした。特に、原発災害は、通常自然災害とは異なり、時間の経過とともに被害がやわらいでいくことがない。前例のない困難な局面で生きる「福島」の現状を、「支援する」「支援される」という単純な枠組みを超えて共有し、再生に向けた「希望」を探りたい。

- パネリスト  
今井 照 (福島大学)  
庄子 まゆみ (南相馬市新エネルギー推進課)  
福島県自治体関係者
- コーディネーター  
青山 彰久 (読売新聞編集委員)

### 午後：分科会 2 走り始めている東日本 ～復興へのプロセスデザイン～

東日本大震災以後、各自治体は、策定された復興計画に基づき「走り」始めているが、実際には計画に定められた事業の完成年次と個別被災者の生活再建や住民との意識のギャップ等、様々な課題が生じている。単なる復旧ではなく、将来にわたって持続的発展を目指すために、何が必要なかを考える。

- パネリスト  
畑 文隆 (南三陸町復興事業推進課)  
町野 弘明 (なつかしい未来創造塾副社長)  
野崎 隆一 (NPO神戸まちづくり研究所事務局長)
- コーディネーター兼パネリスト  
佐藤 滋 (早稲田大学理工学術院教授)

### 午前：分科会 3 交流がつむぐ地域創造

自然環境を源にして生産の場を支えている農山漁村をはじめとする地方の存在は、国全体の視点に立っても決して軽視されるべきではない。地方の疲弊を食い止めつつ、様々な交流や流通によって都市-地方間をつむいでいくことが大切といえる。地域活性化のための行政政策はどうあるべきか、とくに民産学官の協働・協創による戦略のあり方を探る。

- パネリスト  
高村 学人 (立命館大学)  
古川 充 (地域経営コンサルタント)  
牧 慎太郎 (総務省自治行政局)
- コーディネーター  
進士 五十八 (東京農業大学名誉教授)

### 午後：分科会 4 まちとむらの『小さな自治』

平成の大合併が一応終息した今も、とどまることのない少子化・高齢化・過疎化の中で、まちでもむらでも、それぞれの課題に対して「小さな自治」の実践が試みられている。共通する問題意識は、コミュニティレベルの自治組織を基礎にした地域自治は実現できるのか。まちとむらの地域自治関係者をまじえて、議論する。

- パネリスト  
玉置 真悟 (名古屋市議会議員)  
石平 春彦 (上越市議会議員)  
辻駒 健二 (安芸高田市川根地区自治振興協議会会長)  
葉上 太郎 (地方自治ジャーナリスト)
- コーディネーター  
新川 達郎 (同志社大学大学院教授)

### 午前：分科会 5 社会の変化と行政の魅力 ～これからの自治を担う自治体職員の志とやりがいを考える～

次の世代の自治を担う若い職員の志や情熱を喚起するための取り組みはどうあるべきか。自ら考え、人生を切り拓くことができ、市民から信頼される人材の育成方法や自治体職員のやりがいについて、会場の分科会参加者も交えて議論を行う。

- パネリスト  
古川 謙一 (西東京市納税課)  
橋本 康男 (広島県地域政策局)  
荒木 和美 (寝屋川市総務部)
- コーディネーター  
石川 久 (淑徳大学)

### 午後：分科会 6 東アジアの地方政府と公務人材の確保・育成

自治体学会の国際交流の一環として国際交流分科会を設け、日本・中国・韓国の地方政府の人材確保と育成方法に関する国際比較を行う。この分科会では、国際化時代に対応した専門性の高い公共人材の確保や育成に向けた実践的な取り組みを紹介し、相互理解と情報共有を深める。

- パネリスト  
白 智立 (北京大学政府管理学院)  
朴 珍道 (韓国忠南発展研究院長)  
佐々木 敦朗 (広島市副市長)
- コーディネーター兼パネリスト  
申 龍徹 (法政大学)

### 午前：分科会 7 社会保障における国と地方の関係 ～地域の福祉・医療は誰の責任？～

社会保障制度を持続可能なものとするのが喫緊の課題であり、国と地方が重層的な形で役割分担・連携することが一層重要となる。社会保障における国と地方の関係について議論を深め、地域福祉の在り方を模索する。

- パネリスト  
岡本 登 (大阪大学大学院教授)  
山内 雅弥 (中国新聞社客員論説委員)  
中西 大輔 (滋賀県南部健康福祉事務所)
- コーディネーター  
丸山 法子 (リエゾン地域福祉研究所代表)

### 午後：分科会 8 『義務付け・枠付け』の見直しの課題と展望 ～政策法務の視点から～

地域主権改革一括法による「義務付け・枠付け」の見直しについて、基本的な考え方や各自治体における対応事例等を踏まえ、実情を踏まえた条例制定、基準づくりなど、政策法務の視点からその課題と展望について考えていきたい。

- パネリスト  
提中 富和 (大津市会計管理者)  
藤島 光雄 (岸和田市農業委員会事務局)  
澤 俊晴 (広島県総務局総務課)
- コーディネーター  
出石 稔 (関東学院大学)

## 午前：分科会 9

### 地元企画：自転車の聖地広島で自転車政策を考える ～自転車による暮らしやすいまちづくりと観光集客力の向上～

暮らしやすいまちづくりのための自転車政策は、欧米において 20 年程前から先行して展開され、近年、日本や韓国、台湾などアジア諸国においても広まりつつある。暮らしやすいまちづくりのために、そしてまちの観光集客力向上のために、自転車というツールをどのように活用することができるのか。その様々な可能性について、先進的に取組む事例を紐解きながら、自転車政策の可能性と解決すべき課題を議論する。

- パネリスト  
長谷山 弘志（自転車まちづくり研究会前代表）  
勝又 正秀（高松市副市長）  
川口 加奈（NPO 法人 Homedoor 代表）
- パネリスト兼コーディネーター  
宮本 茂（公益社団法人中国地方総合研究センター企画部長）

## 午後：分科会 10

### 議員が立法するという事 ～議員の政策法務能力は高まったか？～

昨今、議員提出の政策条例は確実に増えてきたが、議員の立法能力には限界があり、その支援体制や手続きも整っていない。そこで議会の立法機能の強化、とりわけ政策を条例化することに焦点をあて、議会の政策法務はどうあるべきかを探る。

- パネリスト  
中嶋 年規（三重県議会議員）  
日小田 良二（大分市議会副議長）  
栗栖 俊泰（廿日市市議会議員）
- コーディネーター  
江藤 俊昭（山梨学院大学）

## 午前：分科会 11

### 公募企画：マニフェストによる共働のまちづくり ～市民・議会・行政の信頼づくりのために～

国政では今や“詐欺の代名詞”と言われることさえあるマニフェストだが、自治体ではこれを活用し、住民参加型の政治・行政を進め、地方政治・行政への信頼回復に努めている事例がある。その実践者である市民、議員、首長からの報告を参考に、国政への提案も導きたい。

- パネリスト  
木下 慎一郎（(社)山口青年会議所）  
明木 一悦（LM推進ネットワーク中国）  
山本 孝二（熊本県御船町長）  
木原 勝彬（LM推進ネットワーク関西）
- コーディネーター  
神吉 信之（LM推進ネットワーク九州）

## 午後：分科会 12

### 公募企画：地域の危機を超えて ～地域の再活性化！地域を元気に！～

地域の危機的状況に立ち向かい、活性化を進めている中四国地方の事例を中心に、人々の営み、地域の歴史・伝統、地域資源の活用、人材を生かしたまちづくり、地域プロモーションの観点等さまざまな視点からまちづくりのあるべき姿を考える。また、この議論を通し、地域を支える人たちの元気を取り戻し、魅力的な地域創造について考える場としていく。

- パネリスト  
太宰 信一（児島商工会議所事務局長）  
前田 文章（㈱ラック計画研究所主任研究員）  
中村 英雄（NPO 法人新町川を守る会理事長）  
国本 善平（広島市監査事務局）  
岡山県職員自主研究グループアクションプラン21（岡山役所）
- コーディネーター  
進士 五十八（東京農業大学名誉教授）

## 午後：分科会 13

### 交流会議企画：多様なネットワークの繋がりから豊かな地域づくりを実現しよう！

地域づくりを行政がリードする時代は終わり、これからの地域を誰が担うのか。当分科会では、人口 1 万人弱の小規模自治体ながら、様々なネットワークを活かし、大胆な独自施策を展開する神石高原町の取組みを研究する。メインパネリストである副町長の事例発表をベースに、町のまちづくりに参画する企業、NPO、市民がそれぞれの視点で意見し、議論を深める。

- パネリスト  
上山 実（神石高原町副町長）  
加藤 せい子（NPO 吉備野工房ちみち）  
國田 博史（NPO PWJ 尾道事務所長）  
北澤 克明（㈱ローソン中四国ローソン支社）
- コーディネーター  
田口 太郎（徳島大学）

## ■自治体学会賞表彰式（15:15 ～ 15:50）

## ■グランドフィナーレ（16:00 ～ 17:00）

全国自治体政策研究交流会議と自治体学会の二日間を振り返って、それぞれの企画関係者が分科会等で得られた気づきや感想を交換しながら、これからの課題を議論する。「地域から創る日本の自治」を目指し、広島で学んだまちとむらの未来に向けての取組みを踏まえて、各参加者がこの大会から持ち帰るべき課題を確認して二日間の大会を総括する。

- 出演者  
全国自治体政策研究交流会議・自治体学会の企画関係者等
- コーディネーター  
廣瀬 克哉（自治体学会企画部会長）

## 公募研究発表セッション（A～C）（A・B：10:00～12:00、C：13:00～15:00）

公募に応募された会員による第 3 回目となる「研究発表セッション」を行います。自治の諸課題に取り組む現場からの実践報告、大学院生・研究者らによる研究成果などを発表してもらい、会場の参加者と議論を深めます（セッション A 及び B を午前（10:00～12:00）に、セッション C を午後（13:00～15:00）に開催）。

## ポスターセッション（9:00～16:00）

地域ブロック単位、個人・団体の報告書などの配布・展示、自治体の取組みの紹介、出版物の展示・配布等を通して、参加者が交流・意見交換できる場としてポスターセッションを開催します。

## エクスカージョン（P7、8 参照）

- A：文化と自然を活かしたまちおこし（安芸高田市～北広島町）
- B：まちなみを利用したまちおこし（竹原市～大崎上島町～東広島市）
- C：新たな観光客を取り込むまちおこし（廿日市市～呉市）
- D：民間活力を取り込んだまちおこし（神石高原町～府中市～福山市）